

京都大学情報環境機構広報誌「Info!」

2014.6.18
ISSN 2188-7195

No. 1

Contents

1	情報環境機構広報誌「Info!」第1号発行にあたって	2
2	「全学情報システム利用者パスワードガイドライン」一部改正されています	4
3	学術情報メディアセンター北館OSLが再開しています	5
4	情報環境機構の提供するサービスの英文資料を配布中	5
5	ハウジングサービスを開始しました	6
6	無線LANアクセスポイントの整備・拡充について	7
7	教育研究活動データベースをリプレイス公開	8
8	新構成員向け 情報環境機構講習会を開催しました	9
9	未来の教育edX:KyotoUxスタート	10
10	2014年度コンテンツ作成共同研究を実施します	12
11	KUMailストレージサービスを使ってみてください	13
12	イベント情報	14
13	講習会情報	15
14	「情報環境機構広報誌Info!」を創刊しました	15
15	セキュリティの話題から 第2回 「パスワード、パスワード、パスワード! (その2)」	16

情報環境機構広報誌「Info!」第1号発行にあたって

情報環境機構長 美濃 導彦

日ごろから情報環境機構のサービスをご利用いただきありがとうございます。この度、ネットワークだけに限定して情報をお届けしていましたKUINSニュースを再編し、ネットワークを含む情報環境機構の提供しているサービスすべてに関わる情報提供を一括して行う広報誌「Info!」を発行することになりました。長らくの間KUINSニュースをご愛読くださりありがとうございました。引き続き、新しい情報環境に関する広報誌「Info!」をご愛読いただけますようお願い申し上げます。

情報環境機構は2005(平成17)年に教育研究組織としての学術情報メディアセンターと本部事務局の情報環境部を統括するバーチャルな組織として設立され、その目的は学内の情報環境の整備を一手に引き受け大学全体としての情報環境の設計、運用、維持管理の最適化を目指すものでした。とはいえ、部局の自治が強い状況では、情報環境機構の役割は小さく、設立当初は学内ネットワークとスパコン、情報処理教育のための設備のみが掌握範囲で、特にPCの性能向上のためスパコンの利用者が減少しメディアセンターの予算がスパコンの光熱水料に圧迫されていた時期でした。

情報環境機構は設立後、積極的に活動を開始し、KUINSの責任範囲の明確化と受益者負担の導入、スパコンのコモディティ化(研究室のマシンと有機的に結合できるスパコンの導入)などを進め、安定した情報基盤を提供するための財政基盤の強化を図るとともに、全学的な情報システムとして統合認証システムを導入しました。これが機構としての第1ステップです。これにより学生証、職員証がICカード化されただけでなく、大学全体として情報化

を進める基盤ができました。ICカードと同時にIDとパスワードを発行し学内の様々な情報サービスに共通に利用できるようにし、加えて全学メールを導入し、部局のメールサーバ管理の手間を軽減し、サーバそのものを徐々に廃止していただいています。

第2ステップが、全学の情報環境の最適化とサービス強化です。大学が法人化され、運営交付金が削減される中、いかに効率的に情報環境を整備していくかが求められています。情報環境機構は2010(平成22)年に情報環境整備計画を立て、全学に分散して存在するサーバ類を一括して管理運営する体制を構築する方向を打ち出しました。計画に従って、データセンターを整備し、2014(平成26)年度から学内サーバの統合に向けた活動を開始しています。サーバが手元にないという不安を払拭するためにネットワークの安定稼働、障害回復時間の短縮を進め、信頼が得られる体制を構築しています。手元に計算機がないと、その管理の手間、スペース、人員に余裕ができますので、それを教育研究資源に振り向けることができるようになります。是非、データセンターサービスのご利用をご検討いただければと思います。

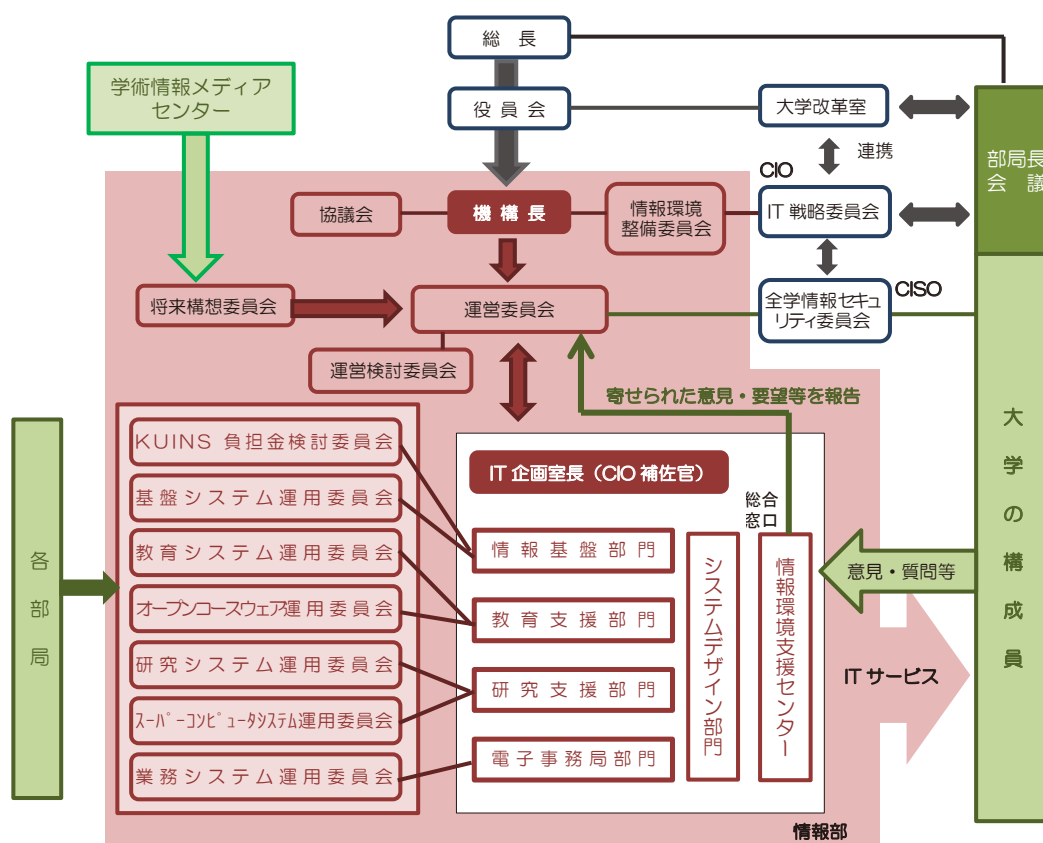
次にサービスの強化ですが、認証や全学メール、ネットワークなど情報環境機構の提供するサービスは大学のすべての構成員が使用します。これまでの情報技術はスパコンのように専門家を対象にしたもので、システムとマニュアルを提供すれば使いたいユーザが勝手に使ってくれましたので、あとは質問に答えるというものでした。機構の技術職員はこのような専門的なサービスの提供に慣れています。一般ユーザを対象としたサービスの

充実を図るには、まず、意識改革が必要です。そこで、機構内組織として情報環境支援センターを組織し、ここで構成員一人一人に支援サービスを提供する体制を作りました。情報環境からお手持ちのPCに関するものまで、あらゆる質問に答えることを目指しております。窓口は学術情報メディアセンター南館にあります。電話やWEBにて質問を承りますので、お気軽にご相談ください。

第3ステップとして、無線LANの全学展開、教育支援の強化を計画しております。2014(平成26)年度に総長裁量経費を措置いただきましたので、これをきっかけに無線LAN整備3年計画を進めていきます。この計画は大学内のあらゆる建物の中で無線LAN接続を可能にすることを目標としています。同時に、ドコモ、au、ソフトバンクなどのキャリアWiFiも学内で使えるように導入を計画しております。これに伴って、全学のセキュリティポリシーを見直し、KUINSの役割を再定義して、便利で快適

な情報環境の構築を進めていく計画です。計画の完了時点でBYOD(Bring Your Own Device:自分の端末で大学の情報環境を利用する)を宣言し、大学は学生が端末を持っているという前提で様々なサービスを提供するという方向で検討を進めていきます。

新たに広報誌「Info!」の発行と並行して、機構のWEBを更新し、情報環境機構のサービスに関する情報を、これまで以上にわかりやすい形で積極的に発信していきます。皆様方のご指導ご鞭撻を心からお願い申し上げます。



情報環境機構組織イメージ図



ご対応ください!

「全学情報システム利用者パスワードガイドライン」一部改正されています

全学情報セキュリティレベルの向上を図るため、「京都大学全学情報システム利用者パスワードガイドライン」の一部を改正し、2014(平成26)年2月4日より施行しています。本ガイドラインは、全学情報システムに接続する本学の「特定部局情報システム」のアカウントを利用する際のパスワードについても適用されます。本改正に伴う措置は**2015(平成27)年3月31日までに行うこと**となっています。特に、KUINS-IIに接続したもの、及び機密性2や機密性3の要保護情報を取り扱うシステムにつきましては、早期の対応をお願いします。

今回の改正では、次の2点が変更になっています。

●パスワードの最低文字列が6文字から8文字に変更

●パスワードに含めてもよい記号にアンダースコア“_”が追加

本ガイドラインの「2.2パスワードに使用する文字列」を抜粋します。

利用者等が設定するパスワード文字列は、以下の条件を全て満足するものでなければならない。

- 最低限8文字以上の長さを持つ。
- 以下ア)～ウ)の英数字集合から各最低1文字以上を含み、エ)を加えても良い。
 - ア) 英大文字(A～Z)
 - イ) 英小文字(a～z)
 - ウ) 数字(0～9)
 - エ) 記号(@!#\$%&=-+*/.,:;[]|_)

また、以下の文字列は容易に推察可能であるため、パスワードとして設定してはならない。

- 利用者等のアカウント情報から容易に推測できる文字列(名前、ユーザID等)
- 上記を並べ替えたもの、上記に数字や記号を追加したもの
- 辞書の見出し語
- 著名人の名前等固有名詞

詳細は以下をご覧ください。

・京都大学全学情報システム利用者パスワードガイドライン

http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/ismo/documents/pdf_p/zengaku_joho_system_password_guideline-2nd.pdf

・Password Guideline for Users of Campus wide Information System

http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/ismo/documents/pdf_p/Password-Guideline-for-Users-of-Campus-wide-Information-System.pdf

・新旧対応表

http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/ismo/documents/pdf_p/zengaku_joho_system_password_guideline-taisyohyou.pdf

(石橋 由子:情報環境機構IT企画室/情報部情報基盤課情報基盤主査)

お知らせ

学術情報メディアセンター北館OSLが再開しています

耐震工事に伴い閉室しておりました学術情報メディアセンター北館OSL(Open Space Laboratory)は、2014(平成26)年3月3日(月)より、リニューアルしてサービスを再開しております。OSLは、2階の南側に配置し、2部屋を用意しています。本部構内北部地区、北部構内の学生さんの自学自習用に、ぜひご活用ください。

■設備・サービス時間

場 所：学術情報メディアセンター北館 2階 201、203

開室時間：平日(月～金)10時～17時

設 備：ネットブック型PC端末60台、高速プリンタ1台

■利用にあたっての注意事項

- 開室時間の10時に自動開錠します。
- 閉室時間の17時には、自動的に端末がシャットダウンします。端末操作は、これまでに終了してください。特に、編集集中のファイルは破損しますので、17時までに保存・終了してください。
- プリンタのドラム/トナーや印刷用紙の消耗品交換は、利用者自身で行ってください。操作手順などは掲示しております。
- 質問、相談は、201室内に設置している内線電話より9009(学術情報メディアセンター南館OSL TA)にご連絡ください。



学術情報メディアセンター北館



学術情報メディアセンター北館所在地

(石井 良和:情報環境機構教育支援部門/情報部情報基盤課)

お知らせ

情報環境機構の提供するサービスの英文資料を配布中

このたび、情報環境機構が提供するサービスの概要をまとめた資料「情報環境機構の提供するサービス」の英文版(Outline of Information Services)を作成しました。作成には研究国際部のご協力を得ています。各部局の文書担当掛にお送りしていますので、今後、新たに教職員となられた外国籍の方にお渡しいただくなど、ぜひご活用ください。

(西垣 昌代:情報環境支援センター/情報部情報推進課情報サービス主査)

ハウジングサービスを開始しました

情報環境機構では、学術情報メディアセンター北館の一部を『データセンター』化し、2014(平成26)年度より部局(研究室)保有のサーバを預かる「ハウジングサービス」を開始しました。これにより、全学的なサーバの集約化による空調設備などへの投資経費の削減、消費電力の節電によるCO2排出量の削減、物理的セキュリティの強化、情報セキュリティ対策コストの削減、信頼性の向上など効率的・効果的な運用・管理の実現を見込んでいます。

これまでも汎用コンピュータシステムを利用したホスティングサービス(VMホスティングサービスやホームページサービスなど)の提供や全学メールシステムの運用など、全学的なサーバの集約にも取り組んでいます。今後、研究プロジェクトなどで新たに調達される計算機システムの設置場所としてご活用いただくことを想定しています。

■ハウジングサービスとは

ハウジングサービスは、部局等が保有するサーバに対して、設置スペース、電源設備、空調設備及び情報コンセントを提供するサービスです。

ハウジングサービスを利用するメリットとして、以下の点があります。

- サーバ設置時に必要な、電源、空調、ネットワーク情報コンセント整備に対する投資が不要です。
- サーバが占有していたスペースの研究室などへの転用により、スペースの有効活用が可能です。
- 空調設備など附帯設備の保守・維持費、更新などの費用を削減できます。

また、ハウジングサービスのオプションとして、サーバ運用の技術支援サービス(情報セキュリティ対策支援サービス、データバックアップ支援サービス)を用意しています。このオプションサービスを利用することで、情報セキュリティ対策、データバックアップに関する負担の軽減を図ることができます。

■設備とサービス種別及び利用負担

ハウジングに提供する計算機室は、研究用計算機室と無停電計算機室の2種類を用意しています。無停電計算機室は、サーバ用の電源及び空調設備、ネットワーク設備の稼働に必要な電源を自家発電機からとることができるようになっていいますので、大規模災害時や計画停電など商用電源が利用できない場合にもサーバの稼働が可能となります。

ただし、電源切り替えのための無停電電源装置(UPS)を用意していただく必要があります。

ネットワークは、新規ネットワークとして1GbpsのKUINS-IIの1ポートを提供します。なお、既存ネットワークの利用などネットワークに関する相談は、別途、KUINS担当と行っていただきます。電源は、単相100V又は200Vを用意しています。

サービスの種別として、利用者が所有するサーバラックにサーバ機器を搭載してラックごとハウジングする『ラック持込み型』と情報環境機構が用意したラックの1区画(10U)に機器をハウジングする『オープンラック型』の2種類があり、利用負担金は次ページ表のとおりとなっています。

ハウジングサービス利用負担金

区 分	計算機室	負担額(円/月)	単位
ラック持込み型	研究用計算機室	10,000	1ラックにつき
	無停電計算機室	20,000	
オープンラック型	研究用計算機室	5,000	1区画(10U)につき
	無停電計算機室	10,000	

また、電気使用料については、計算機の実測消費電力及び空調設備に係る実測消費電力を計算機の実測消費電力比率で按分したものを実費負担していただきます。

データセンターとして計算機室の物理的なセキュリティを強化するために、非接触型ICカードによる入退管理と防犯カメラを設置しており、さらに、時間外、休日を含め24時間365日、有人による建物管理を行っています。

■申請方法について

ハウジングサービスの利用に際して、まず初めに担当の技術職員が対面でヒアリングを行います。サービス内容について説明し、ハウジングされる機器構成や用途、利用開始時期、オプションサービスの希望などを伺います。ご質問やご要望についてもヒアリングさせていただきます。ヒアリングの結果、ハウジングサービスの利用が決まりましたら、『ハウジングサービス利用申請書』(PDFフォーム)を提出していただきます。

■問い合わせ先

ヒアリングの申込み、その他お問い合わせは、総合窓口の情報環境支援センターまでご連絡ください。

なお、情報環境機構ホームページ(<http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/>)にて、データセンターで行うハウジングサービスの利用負担金や利用規則に関する詳細情報を掲載していますので、併せてご覧ください。

(赤坂 浩一: 情報環境機構IT企画室/情報部情報基盤課研究情報主査)

お知らせ

無線LANアクセスポイントの整備・拡充について

このたび情報環境機構では、無線LANの整備・拡充を行うこととなりました。

スマートフォンやタブレット端末の普及や教育研究環境での利用のニーズを受け、NTTドコモやau、ソフトバンクなどのキャリアWi-Fiも可能にした高速な無線LANを学内のより多くのエリアで提供できることを目指しています。

講義室や会議室等、学内で人が多く集う場所を中心として、導入後年数を経た無線LAN機器の更新も視野に入れ、無線LANアクセスポイントを設置していく計画です。

本件につきまして、みなさまからのご意見やご要望を聞きつつ進めていきたいと思っております。ご協力のほど、よろしくお願いします。

(石橋 由子: 情報環境機構IT企画室/情報部情報基盤課情報基盤主査)

教育研究活動データベースをリプレース公開

学校教育法施行規則の改正により、2011（平成23）年4月1日から大学等の教育情報の公表が義務化されています。このため、本学においては各教員の有する学位や業績に係るものを公表する手段として、2011（平成23）年3月から教員活動データベースを構築し、運用を開始しています。このデータベースの利活用は本来の公表のほかに教育研究活動等の現状把握、認証評価や自己点検評価の基礎データ、各種照会等への対応なども想定されています。

また、具体的な運用においては、教員個人の研究業績としてそれまで活用していた論文情報などの蓄積のための研究者総覧データベースのほか、当時の各種データベースから情報を収集し、当機構で初期値として登録し開始したのですが、その後は論文等の項目は教員個人が更新、その他の項目は所属部局事務、本部事務の担当となっています。

2012（平成24）年3月からは学内に散在する教育研究に関するデータを統一的に管理するために、あらためてデータを収集するとともに名称も「教育研究活動データベース」に変更して一層充実したデータベースの構築に努めて参りました。さらに、2013（平成25）年度には過去10年間に遡って、部局が保有する年報などの紙媒体を含めた関係情報のデータベース化にも取り組み、今後、教員のみなさまご自身によるデータ内容の確認を行っていただいたうえで、いよいよ8月からリプレース・公開することになりました。

このたびの教育研究活動データベースのリプレースの大きな特徴としては、教員個人の研究業績に係る「論文/学会発表等」「講演等」「著書等」「特許」の4つの教員自身で登録する項目について、(独)科学技術振興機構(JST)が提供するサービスの研究者総覧データベース「researchmap」と連携させるところにあります。これにより、重複入力をなくし、入力支援システムの共有により、簡便な入力環境の提供ができる予定です。



researchmap との連携画面（研究業績の取込入力イメージ）

また、このデータベースは学校教育法施行規則による大学等の教育情報の公表義務対象の職である、常勤の教授、准教授、講師、助教、その他総長が必要と認める者のほか、既登録の教職員も任意で継続して登録することができ、その他の全ての教職員も任意で登録を可能としています。（ただし、新たに任意登録を希望される方は所属長の了解を得た申請書の提出が必要です。）

今後も教育研究活動データベースが単に法律の要請による公表のためだけのデータベースにとどまらず、多様な学内外の要求に応えるため、充実した機能を備えるための努力を続けて参ります。是非、京都大学の多様で充実した教員のアクティビティをこのデータベースを通してご覧ください。

京都大学教育研究活動データベース Activity Database on Education and Research, Kyoto University

URL <http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/view/>

（谷川 徹：情報環境機構IT企画室/情報部情報推進課企画主査）

活動報告

新構成員向け 情報環境機構講習会を開催しました

2014（平成26）年4月11日（金）に、情報環境機構講習会を開催しました。この講習会は、新たに京都大学の構成員になられた教職員の方を対象に、京都大学情報環境機構が提供する研究・教育活動のために必要な情報基盤のサービスの利用法と運用について紹介するとともに、その利用の上で守るべき情報セキュリティポリシーや個人情報保護について解説し、スタートアップ等をサポートすることを目的として開催しているものです。今回は、希望があった桂地区に遠隔配信を行い、参加者数は、合計63名（吉田地区60名、桂地区3名）でした。

講習会の内容は、以下のとおりです。

- | | |
|------------------|--------------------------------|
| ●情報環境機構の提供するサービス | ●教育に関する情報環境 |
| ●教職員グループウェアについて | ●学術情報ネットワーク(KUINS)の運用とサービスについて |
| ●統合認証基盤の利用について | ●京都大学の情報セキュリティ対策について |

当日はアンケートを実施し、41名の方からご回答をいただきました。

良かった点として、「情報環境機構が提供しているサービスの概要が簡潔にまとめられており、わかり易かった」「全体像が勉強できて良かった」というご意見が寄せられました。改善すべき点については、「準備に少し手間取った」「各サービスで内容が少しオーバーラップしている」等のご指摘をいただきました。また、今後希望する講習内容としては、「eduroam等の使用方法」「セキュリティ管理についての詳細」「情報セキュリティe-Learningの詳しい情報」「ftpサーバ等の利用法(KUINSによる通信法の特性等)」等が寄せられました。これらいただいたご意見を生かし、講習会をさらに充実させていくよう努めていきます。

なお、次回は10月を予定していますので、今後周囲に新規着任される方がおられましたら、ぜひ受講をお勧めくださいますよう、お願いいたします。

（西垣 昌代：情報環境支援センター/情報部情報推進課情報サービス主査）

未来の教育edX:KyotoUxスタート

4月10日、日本初のedX:KyotoUx (<https://www.edx.org/school/kyotoux>)が始まりました。edXは「MITとハーバード大学が推進するITを使ったオンラインの未来の教育を探求するコンソーシアムであり、インタラクティブなオンライン教育:MOOCのひとつです。京都大学では、KyotoUxと名前を付けました。最初の講義は、京都大学物質-細胞統合システム拠点iCeMs副拠点長の上杉志成教授の“The Chemistry of Life”です。皆さんにその一端をこれからご紹介します。

この講義には世界から約17,000人もの登録がありました。edXスタッフからは、専門的な化学という講義に2万人近い人々が登録するのは、珍しいとの声もありました。上杉教授の「化学と生物学の知識を中心に新しい創造的なアイデアを生み出そう」という講義のテーマが魅力的だったに違いありません。講義では、化学と生物学だけに留まらず、哲学や音楽などのアイデアも紹介し、それらを化学につなげるところが上杉講義の醍醐味で、開眼することが多いです。



最初の週は入門編で、上杉教授の高校時代の彼女の話から始まるのですが、「好きな人に得意な科目を教えたのに、彼女がテストで0点を取りました。好きな事を人に教えるのは簡単ではない」と説きます。

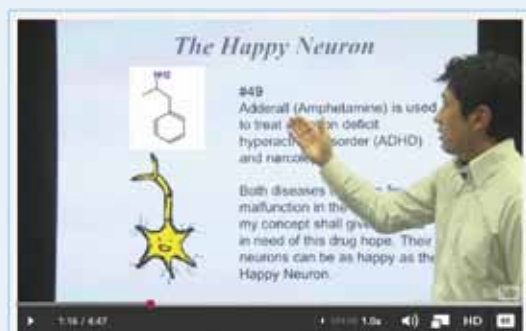


その後、2～3週目には、さらに登録者が18,000人に増えました。ディスカッションフォーラムでは、生徒さん達の自己紹介で盛り上がっています。2週目の最後には、最初の宿題がありました。これは、化学式に慣れる練習です。ベスト100の薬の化学式の中から選んで、化学式ツールを使い化学式を描き、その化学式の形を星座のように見立て、薬の意味も込めて、「薬星座」を作ります。2,200人が参加しました。

その宿題を、学生同士がオンライン上で、上杉先生の評価方法を手本に、ピアレビュー（お互いに評価）をし合います。ピアレビューで満点を取った宿題を学生さんから出してもらい、上杉先生がオンライン上で講評をする。優秀な作品を紹介します。

作品タイトルThe Happy Neuron, アデロール(アンフェタミン)は、注意欠陥多動性障害(ADHD)およびナルコレプシーを

治療するために使用されます。両疾患は、脳の誤動作に由来します。患者は、この薬の希望を必要としています。そのニューロンは薬の効果により、幸せなニューロンのように幸せになります。以下の絵をご覧ください。



5週目の宿題は、本格的に化学と生物学を使った新しいアイデアを出す宿題が行われました。以下の宿題がピアレビューで最も評価が高かった宿題です。

Phenol Red Solution

DNA

in a microwell plate

DNA Standard concentrations in Phenol Red solution

Samples

A lot of DNA

Very little DNA

Simple scanner to obtain color of the samples and software for analysis

Public Username: Khuy-Vor-2

Title: Inexpensive solution for extracted DNA quantification

Summary: When professor was talking about "Substitute" and "Put other applications in use" principles, I thought of cell culture media which usually has got phenol red in order to tell the accumulation of acidic metabolites such as lactate. Why won't we substitute the cell culture with extracted DNA and since it is acidic we can crudely, but quickly determine the concentration using simple document scanner and probably software for analysis.

実は、この講義には、すごいサプライズがあります。宿題の評価が高い学生を5人、京都大学に招待します。また、そのうち1名は、京都大学から国費留学生の資格を与えられます。

たまたまこの記事を読んで興味をもった学内の皆さん。まだ間に合います。この機会に、ぜひedX体験をしてみませんか。世界の名門大学の講義がオンライン上で受けられます。世界が一気にひろがりますよ！

■お問い合わせ

edX/OCW推進室：電話075-753-9081

e-mail: request-ocw@media.kyoto-u.ac.jp

(土佐 尚子:情報環境機構システムデザイン部門教授
/KyotoUxプログラムマネージャー)

 募集案内

2014(平成26)年度コンテンツ作成共同研究を実施します

京都大学学術情報メディアセンターでは、2014年度実施分の「コンテンツ作成共同研究」の提案を募集しています。「コンテンツ作成共同研究」は、独自性・新規性があり、かつ、本センターの設備や技能・発想を持ったスタッフとのコラボレーションが効果的な実験的要素の高い、新たな学術・教育コンテンツの開発を目的とした提案について、申請者とセンターが共同で実現することを目的としています。

募集要領は次のとおりです。

応募にあたってのご質問、お問い合わせも受け付けております。問い合わせ先までご連絡ください。

■募集期間

2014(平成26)年6月9日(月曜日)～7月7日(月曜日)

■募集内容

具体的な内容としては、学術教育機関からの教育・研究活動の発信と活動そのものの発展に関わるコンテンツ開発を含む計画、学術教育資源の高度アーカイブ化とその利活用を促進するようなコンテンツ開発、インターフェイス設計などといった実験・研究的要素の高い計画が考えられます。採択された計画は、その実施に必要なコンテンツ作成室の作業工数負担金の一定の範囲内をセンターにて負担いたします。

コンテンツ作成支援サービスとは異なり、作成に専門の設備や技能が必要となるだけでなく、制作会社等に発注することが困難であるが、共同研究実施後その成果を広く社会に寄与しうるコンテンツ作成の提案を募集します。

■応募資格

研究申請代表者は、京都大学学術情報メディアセンターの全国共同利用規程の資格を持つ研究者・教員であること(具体的には以下のとおり)。また、本センターの教員が1名以上共同研究者として加わる研究グループであること。

- 大学、短期大学、高等専門学校又は大学共同利用機関の教員及びこれに準ずる者
- 大学院の学生及びこれに準ずる者
- 学術研究を目的とする国又は自治体が所轄する機関に所属し、専ら研究に従事する者
- 科学研究費補助金等の交付を受けて学術研究を行う者
- その他センター長が必要と認めた者

■応募方法

所定の様式にしたがって計画書(3ページ)を作成の上、2014(平成26)年7月7日までに郵送・学内便もしくは電子メールでご提出ください。記載された個人情報につきましては、本応募に関わることにのみについて利用させていただきます。

■審査方法、審査

応募された提案は、京都大学学術情報メディアセンターコンテンツ作成共同研究企画委員会において、研究内容の新規性と独自性、計画の妥当性、また、本センターにおけるコンテンツ作成共同研究のための予算の範囲内で実施可能なものかを審査のうえ採否を決定します。採否は委員会での決定後、電子メールにて7月下旬に連絡いたします。

■応募計画書ダウンロードや詳細確認

以下のWebページにて、共同研究の詳細を掲載しております。また、応募計画書の原紙のダウンロードも行っています。

<http://cpt.media.kyoto-u.ac.jp/collaborative/2014/>

■問い合わせ先・計画書提出先

応募に関するお問い合わせも、このアドレスまでお送りください。可能な限り、応募の前に御一報ください。

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町

京都大学学術情報メディアセンター（南館） コンテンツ作成室

cpt@media.kyoto-u.ac.jp

（元木 環：情報環境機構システムデザイン部門助教/コンテンツ作成室 室長）

👉ご存知ですか？

KUMailストレージサービスを使ってみてください

情報環境機構では、ファイル受け渡し可能なオンラインストレージサービス「KUMailストレージサービス」を提供しています。

本サービスは、電子メールに共有したいファイルを添付するのではなく、ファイルを保存したサーバのURL(場所)を通知し、必要な方はそのURLからファイルをダウンロードするというもので、メール認証やパスワード設定等により、学内外の研究者との間で安全にファイルを受け渡しすることができます。インターネット環境があればいつでもどこでもファイルの出し入れができる、オンラインストレージサービスです。

メールにファイルを添付して送る場合、大容量の添付ファイルは、送付先の容量制限により送れない場合があったり、メールサーバに大きな負荷がかかるため他の方のメール送受信にも影響が出たり、また受け取る場合も、ネット環境によっては添付ファイルの取り込みに時間を要したりしますが、このサービスをつかうことにより、これらの問題を改善することができます。

ぜひご利用ください。

■本サービスの基本的な機能

- 利用者毎にユーザフォルダ(2GB)を提供します。
- 各自のユーザフォルダに「Web公開フォルダ」や「受取フォルダ」を設定して、ファイルの受け渡しを行うことができます。
- 市販のファイル共有と同様に、ドラッグ&ドロップにてファイルをサーバにアップできます。
- いくつかのセキュリティ対策(メール認証やパスワード保護)により、内外の研究者とのファイル共有を安心して行えます。

KUMailストレージサービスURL

http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/mail/kumail/KUMail_fsv

（西垣 昌代：情報環境支援センター/情報部情報推進課情報サービス主査）

イベント情報

京都大学学術情報メディアセンターでは、月に一度、各分野でご活躍の講師をお招きし、それぞれの研究開発活動の内容や現在抱えている課題についてご紹介いただき、参加者を含めて広く議論を行う機会として、月例セミナーを開催しています。

いずれも事前の参加申し込みは不要です。学内外を問わず多数の方の参加をお待ちしています。

イベント情報URL <http://www.media.kyoto-u.ac.jp/ja/index.html>

■6月定例セミナー

日時：2014(平成26)年6月24日(火曜日) 16:30～18:30

場所：学術情報メディアセンター南館2階 202マルチメディア講義室

題目：なぜ？あなたの機関ではクラウドサービスを利用しないんですか！皆さんの不安を解消します
プログラム

16:30～17:30 クラウドサービス利用ガイドラインと広島大学の取り組み

西村 浩二 教授(広島大学 情報メディア教育研究センター)

17:30～18:30 クラウドサービスの導入を支援する認証連携フレームワーク「学認」

中村 素典 特任教授(国立情報学研究所)

問い合わせ先：学術情報メディアセンター/情報環境機構 永井 靖浩

ya.nagai@media.kyoto-u.ac.jp

■7月定例セミナー

日時：2014(平成26)年7月22日(火曜日) 16:30～18:30

場所：学術情報メディアセンター南館2階 202マルチメディア講義室

題目：クラウド時代の新しい研究スタイル～ICTは研究活動を加速させられるか？

プログラム

16:30～17:30 Crowd4U:なぜアカデミアで協力してクラウドソーシングプラットフォームを作るのか？

森嶋 厚行 教授(筑波大学 知的コミュニティ基盤研究センター)

17:30～18:30 学術研究クラウドファンディングの可能性

柴藤 亮介 氏(株式会社エデュケーショナル・デザイン 代表取締役社長)

問い合わせ先：学術情報メディアセンター/情報環境機構 高野 潔

kono.kiyoshi.2c@kyoto-u.ac.jp

■臨時セミナー

日時：2014(平成26)年8月1日(金曜日) 16:00～18:00

場所：学術情報メディアセンター南館2階 202マルチメディア講義室

講演題目：Improving the slideshows' efficiency: the visual ergonomics principles

(スライドショーの効率改善:視覚に関する人間工学の原則から)

講師：John Augeri氏(Directeur de programme chez Université Numérique Paris Île-de-France)

(注：講演は英語で行われ、通訳はつきません)

問い合わせ先：学術情報メディアセンター/情報環境機構 斉藤 康己

saitou.yasuki.5x@kyoto-u.ac.jp

講習会情報

情報環境機構では、各種の利用者向けの講習会を開催しています。6月～10月の講習会の開催予定は次のようになっています。申込み制になっているものについては、情報環境機構のWebサイトからお申込みください。

講習会情報URL <http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/whatsnew/tutorial/>

開催日	講習会名	申込	定員	担当
6月19日(木曜日)	IDLの基礎と応用	必要	20名	研究支援
6月20日(金曜日)	ENVIの基礎と応用	必要	20名	研究支援
6月26日(木曜日)	AVS基礎	必要	20名	研究支援
6月27日(金曜日)	AVS応用	必要	20名	研究支援
7月 1日(火曜日)	学生アカウント(ECS-ID)利用講習会	不要	—	教育支援
7月 3日(木曜日)	LS-DYNA入門	必要	20名	研究支援
7月 4日(金曜日)	ADAMS入門	必要	20名	研究支援
7月7日(月曜日)	XeonPhiプログラミング入門	必要	20名	研究支援
7月10日(木曜日)	Nastran, Patran入門	必要	20名	研究支援
7月11日(金曜日)	Marc入門	必要	20名	研究支援
8月 4日(月曜日)	学生アカウント(ECS-ID)利用講習会	不要	—	教育支援
7月24日(木曜日) ～25日(金曜日)	Cray XC Programming Environment Workshop	必要	20名	研究支援
9月 5日(金曜日)	学生アカウント(ECS-ID)利用講習会	不要	—	教育支援
9月25日(木曜日)	数値解析プログラミング入門(NAG編)	必要	20名	研究支援
9月26日(金曜日)	数値解析プログラミング入門(IMSL, TotalView編)	必要	20名	研究支援
9月 未定 ※	並列プログラミング講座・初級編	必要	20名	研究支援
9月 未定 ※	並列プログラミング講座・初級編	必要	20名	研究支援
10月 未定 ※	情報環境機構講習会	必要	100名	支援センター

※開催日が決まり次第、情報環境機構のWebサイトに掲載します。

編集より

「情報環境機構広報誌 Info!」を創刊しました

京都大学情報環境機構は、2014(平成26)年4月より、京都大学ICT基本戦略に基づいて、ユーザセントリックなITサービスを迅速に提供するため、新たな体制に移行いたしました。

これを機に、京都大学学術情報ネットワークシステムの広報誌として、1988年2月より2014年2月まで25年に渡り発行されていた「KUINSニュース」を、情報環境機構全体の広報誌としてリニューアルし、誌名も新しく「情報環境機構広報誌Info!」として発刊する運びとなりました。「KUINSニュース」と同じく、年に3～4回のペースで発行する予定です。

広く学内の構成員のみなさまに、情報環境機構で取り組んでいるさまざまな提供サービスの情報や活動状況をお伝えし、親しみをもってもらえるような広報誌となるよう、努力していきたいと考えております。

誌面に掲載しましたサービスについての質問、記事として取り上げてほしい内容の希望やその他広報誌への要望など、奥付の【情報環境支援センター】まで、どうぞお気軽にお寄せください。

これからも「KUINSニュース」と同様に、また、今まではご存知無かったみなさまも、この「Info!」をご愛読いただけますよう、よろしくお願いいたします。

セキュリティの話題から 第2回 「パスワード、パスワード、パスワード! (その2)」

パスワード（以下PWと略記します）の話を続けます。前回（KUINSニュースNo.84最終号 <http://www.kuins.kyoto-u.ac.jp/news/84/#security-column>）は、作りやすく覚えやすくそして忘れにくいPWの作り方を一つご紹介しました。

今回は、使い回しをせずに、沢山のPWをどうやって作るのかをお話しましょう。既に覚えやすい強力なPWを一つは持っているという前提で話します。このPWを「StrongPassword」と呼ぶ事にしましょう。サービスや目的毎に別のPWを作りたい時には、そのサービスや目的を端的に表す文字列（例えばFacebookだったらFBとか）を「StrongPassword」に付加すれば良いのです！簡単ですね。Facebookの例では、例えば「StrongPassword-FB」となります。どこに付加するか、間に記号などを入れるか入れないか自分なりのルールを決めて作ってください。サービス名や目的をどのように表すかもあなたの自由です。これはほんの一例なので、自分なりの工夫をしてみてください。さらにこれを3ヶ月に1回更新せよと言われたら、更新月を1月、4月、7月、10月と決めて、更新した年月情報を付加しましょう。例えば「StrongPassword-FB-1407」。年月の表記法も山ほどあるので好きな記法でどうぞ。こんな安易な決め方で良いの？と言われそうですが、同じPWを使い回すのよりは格段に安全性は高まります。

でもやっぱり自分でルールを決め、覚えておくのは面倒だという人には、ブラウザに組み込みのIDとPWを記憶してくれる機能を使うとか、あるいはPassword Managerと称する無償のツール（一部有償）を使うという手もあります。RoboForm、1Password、LastPass、KeePass等々枚挙にいとまがありません。でもこれらも「マスターパスワード」というのを1つは作って覚えておかないといけません。クラウドを使っているものが多いのでクラウドはまだ心配という人には向かないかもしれません。LastPassのように過去にセキュリティ事故を起こしたものもあったりするのでどれを使うかは自分でしっかり判断してください。

（斉藤 康己：情報環境機構情報基盤部門教授）



京都大学情報環境機構
Institute for Information Management and Communication,
Kyoto University

編集・発行：京都大学情報環境機構
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
Webサイト <http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/>

掲載記事に関するご質問やご意見・ご感想などありましたら、ぜひ下記までお寄せください。

【総合窓口】
情報環境支援センター
E-mail: support@iimc.kyoto-u.ac.jp